

# スライムからどんぐりむらへ、どんぐりむらができる！

～きりん組がとびこんだどんぐりむらの世界～

## はじめ

夏、スライムにハマった子どもたちは、海の世界をつくりたい！と話が盛り上がっていきます。海の世界面白そうだね！と話が進んでいた矢先に出会った、『どんぐりむらのほんやさん』という絵本。もともと子どもたちが好きだったどんぐりむらのシリーズで海の世界をみつけた子どもたちは、「これがつくりたい!!!」と大盛り上がりになりました。そこから、きりん組が本気で挑戦したどんぐりむら作りがはじまっていきました。

まずは出会いのスライムから見ていきたいと思います。

## スライムづくりに挑戦！

夏、お盆期間で子どもたちの数が少なく縦割りで保育を行っている時、スライム遊びを提案してみました。

園庭に泥んこ遊びをしに行った傍らで、スライムのコーナーを準備していると、「スライムやりたーい！」と子どもたちが集まってきました。スライムづくりに必要なもの（洗濯のり・ホウ砂・水・絵の具）を机に並べると、「これどうやってつくるの？」と聞かれました。「うーん、先生も作り方がよく分からないんだけど、なんか混ぜたらいいんだって!」「混ぜるのか！やってみよう!」「どれくらいの量かな?」「この線のどこまでで一回やってみる!」とスライムづくりが始まっていきました。材料を入れて混ぜていくと、「みてみて！固まってきた!」「伸びてるー!!」となにをどれくらい入れたかで、柔らかいスライムになったり、固いスライムになったりしている様子でした。「スライムできたー!」「きもちいい!!」「ぷにぷにしてるー!」と嬉しそうにスライムを見せてくれました。



## スライムに色をつけたい！

スライムができあがったあと、色をつけたい！と絵の具を入れ始めました。すると…「全然色つかない!」「な

んか手にばっかり絵の具つく！」「なんでかな？」と大苦戦。きれいに出来ていたスライムも絵の具まみれになり、「えー！なんか汚くなっちゃった。」「なんで色つかないんだろう」と大失敗になりました。そこで、給食前にながいがいけなかったのかの話し合いをしました。すると、「入れ過ぎたらいけないんだ」「絵の具を入れる順番がよくないのかな」「箱には粉が最後って書いてあったから粉が最後なのかも！」「え！そうなの！？じゃあ今度は粉を最後にいれよう！」という話になりました。今度は翌週に挑戦しよう！と決意したみんなの挑戦はつづきました。



### 色つかりベンジ！

この日は前回のリベンジをするために朝から意気込んでスライムづくりが始まりました。「スライムどうやってつくったら良さそうだったんだっけ？」と聞くと、「粉が最後だよ！」「あと！あと！入れ過ぎたらだめでしょ！」「絵の具も途中で入れてやってみるんだよ！」とたくさんの返答が返ってきました。「そうだったね！じゃあそれでリベンジしてみよう！」とさっそく洗濯のりを入れて、水を入れて、「ここで絵の具ね！」、グルグル混ぜて…「よし！もういいかな？」「粉いこう！」と粉（ホウ砂水）入れて、もう一回グルグル混ぜてると…「固まってきた！」「すごい！色ついてるよ！！」「みてー！！スライムできた！」と色のついたスライムができあがりました！！前回の失敗があったからこそ、色のついたスライムが本当にうれしそうな様子で、「今日は絶対持って帰る！！」「ママにもみせたいな～！」と大興奮でした。



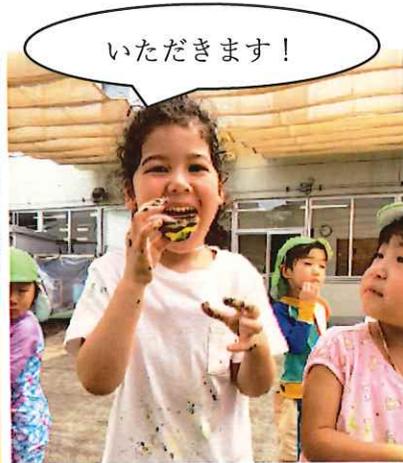
みてみて！！  
色ついてる！！  
すごいよ！！

まぜて！  
まぜて！

固まってきた！

## スライムがハンバーガーに！？

出来上がった、スライムで「これチーズみたいだよ！」と見せてくれたきりん組さん。すると、「そのチーズ挟んでハンバーガーにしたいね！」と話が盛り上がっていました。そこで、「茶色の絵の具持ってくる？」と保育者が聞いてみると「いいの！？パン作ってチーズ挟んでハンバーガーにしようよ！」とハンバーガー作りがはじまりました。その様子を見ていたうさぎ組さんが、「これレタスにしてはさむ？」と自分が作っていた緑色のスライムを差し出しました。「いいね！ここにいれて！」と数人の共同作業でハンバーガーができあがりました。スライムをつくることに夢中になっていた子どもたちが、スライムを使ってなにかを作ることに夢中になる。遊びがどんどん深まりながら、スライムと一体となって楽しそうに遊んでいました。



## ポンドスライムに挑戦！

前回のスライムづくりから少し間があき、夏の終わりにもう一度スライムづくりに挑戦しました。今回は、ホウ砂を水に溶かしたホウ砂水に加え、ポンドを用意しました。“ポンドスライム”というものを保育者が知り、「スライムにポンドを混ぜるとすごく伸びるスライムになるらしい！」という話を子どもたちにしました。すると、「えー！！つくりたい！」「面白そう！」「ポンド！？」「ポンド入れたら伸びるの！？」と盛り上がり、さっそくポンドスライムづくりがはじまりました。ちょっとずつ入れて、どうかな？これが足りないかな？ってやっていくといいよ！とアドバイスしていたので、慎重に慎重にやる子どもたち。「もっとかな？」「え！固まってきた！！」「みてこんなにびよーん！」「どのくらい入れたの？」と固まってきたスライムに大興奮でした。手につかないくらいの柔らかさにしたいと、何度も試行錯誤する様子もありました。

後半にはうさぎ組さん(3歳児)も参加し、率先してやり方を教えてあげたり、一緒にやったりしていました。



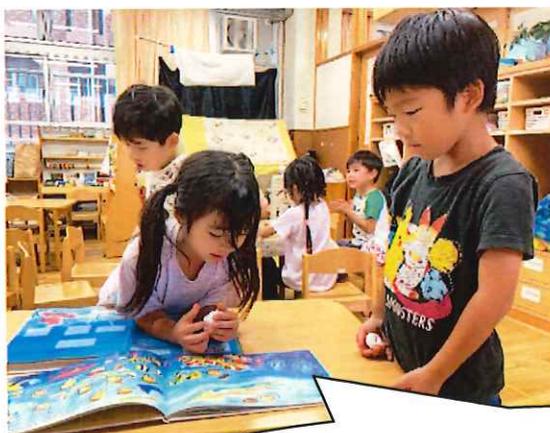
伸ばすことに夢中になった子どもたち！  
みてみて！こんなに伸びたよ！と見せてくれていました！



## ポンドスライムとねんど

ポンドスライムでのばすことをめいっぱい楽しんだ子どもたちは次第に、スライムで何かをつくるのが楽しくなっている様子がありました。しかし、その日の活動はどうしても時間の関係で何かを作りきるまでいくことができなかったので、午後にねんどを用意してみました。午睡中に密かにねんどの準備をして、何も言わずに午睡明け、クラスに戻ると、「えー！！これなに！？」「ねんど！？」「え！ねんどであそぶの！？」とねんどに大喜びの子どもたち。「スライムで色々作りたかったけど、時間なかったかなと思って、ねんど用意してみたんだ！」と声掛けると「はやくやりたい！」「いいね！」といつも以上にはやくおやつが終わってしまいました。

ねんどを一目見た子どもたちは、「なんかポンドスライムに似てるね！」、触ってみて、「でも全然伸びないからスライムとはちょっと違うよ！」「たしかに全然伸びないね」とポンドスライムとの違いを感じていました。そこから子どもたちは、ポンドスライムよりも伸びないけど、ポンドスライムよりも形が作りやすい、ねんどの魅力にもハマってしまいました。



海の世界の生き物をつくりたい！と絵本や図鑑を出してきて見ながら、一生懸命に作っていました！



### 絵本の世界をきりん組で実現するには…

スライムで遊び込み、ねんどにもハマっていたきりん組。ラキューで作っていた〇〇の世界も「次は恐竜がいい！」などと盛り上がっていたので、何かの世界を作ること遊びが深まっていくかもしれないと、絵本の世界づくりを保育者の中で考えはじめました。しかし、これまで行ってきた絵本の世界作りはらいおん組(5歳児クラス)での活動で、ホールを使った大掛かりなものだったため、らいおん組のようにつくことは難しいよねと保育者はきりん組で実現させることに壁を感じていました。それでも、〇〇の世界作りが好きなこのクラスの子どもたちと何か形にできないか、と考えたのが、“絵本の世界をミニチュアにする”という方法でした。机の上で世界を再現していくのであれば、きりん組でも扱いやすく、イメージも持ちやすいのではないかと保育者のなかでも意見がまとまり、さっそくそこに向けて子どもたちと話し合いが始まっていきました。

### 大好きだった「どんぐりむら」シリーズに触発されて!?

夏前から子どもたちの好きな絵本に『どんぐりむら』のシリーズがありました。「絵本、今日は何読もうか？」と聞くと、「どんぐりむらがいい！」と言われることも多く、クラスで何度も読んできた絵本の一つに『どんぐりむら』がありました。絵本の世界作りに向けていい絵本はないかな？と密かに保育者の中で思っていたある日、『どんぐりむらのほんやさん』というどんぐりむらシリーズの絵本を読んでから、どんぐりがたくさん落ちている徳持公園に行ってきました。徳持公園に落ちているたくさんどんぐりに「このどんぐり、どんぐりむらにもいたね!」「みどりの子っていなかったけ?」「まきばじいはいないね」と口々に『どんぐりむら』の話題ができており、目の前のどんぐりと絵本の『どんぐりむら』を重ね合わせながら遊んでいる様子でした。

その様子を見たときに、『どんぐりむら』の世界作りがいいかもしれないという思いが保育者の中に沸き起こってきました。そこで、次の日の活動予定を書いているホワイトボードに“どんぐりせいさく”と書いてみました。

次の日、予定表に書いてあった“どんぐりのせいさく”の文字を見て、「え!どんぐりでなんか作るの?」「どんぐりむらがいいな~!」「どんぐりむらのどんぐりたちができたらいいのに!」という声が聞こえてきていました。「いいね!どんぐりむらのどんぐりたち作ろうよ!」「いいの!?じゃあどんぐりむらもつくりたい!」「よーし!どんぐりたくさん拾うぞー!」「えいえいおー!」と意気込んで公園に行きました。徳持公園にはたくさんどんぐりが落ちており、「みて!これいいよ!」「ぼうし被ってるのもある!」「みどりのやつもあるよー!」とたくさんどんぐりと、どんぐりたちの手足に使う棒を拾ってくることができました。



どんぐりむらのどんぐりどれかな?



みて！！  
 こんなど  
 んぐりみ  
 つけた  
 よ！！



帰って来てからは“どんぐりむら”づくりについての会議を行いました。「どんな風にどんぐりむらをつくっていく？」と聞くと、「海の世界はつくりたい！」「どんぐりむらにディズニーランドがあってもいいな！」「おまわりさんもあったよね！」「そうそう！ぼうしやさんもつくろう！」と色々な案がでてきました。そこで、「海の世界・ディズニーランド・おまわりさん・ぼうしやさんの4つの世界をそれぞれつくっていくことにする？」と話をまとめて聞き返しました。すると、「いいね！」の声のなかに「いやだー！」の声が聞こえてきました。「嫌な人いるって！どうする？」と聞くと、いやだー！と言っていた子に、「なにがいやなの？」と聞き返していました。嫌だった理由は、「だって、お家も作らないとどんぐり住むとこないじゃん！」とのことだったので、おうちもつくることで話がまとまりました。

### どんぐりむらづくり始動！

今日、さっそくどんぐりむらづくりがはじまりました。まずはどんぐりたちの家を作ろう！と木育で使用し、余っていた木材に色をつけ、ポンドで貼り合わせるなどそれぞれの作業がはじまっていきました。「ここに階段もつけたい！」「どんぐりむらの家だから茶色にしよう！」「どんぐりの絵描いてもいい？」「これは監視カメラね！」と色々なアイデアが出てきては、「じゃあこの木使えるんじゃない？」「いいね！」と作業が進んでいきました。一方で、上手くポンドがとまらず「なんでここに貼れないの！」「ここに貼りたいのに落ちてきちゃうな～」「しばらくおいて乾かしてみたらいいよ！」「そうなのか～ポンドはすぐ乾かないんだね」となる場面や、「木、ここは塗りやすいのにここは全然色つかないよ！」と木の質感の違いに気づく場面もありました。素材に出会いながら、こうしたいときはこうするといいい！を自分たちでも見つけながら、「どんぐりむらには松ぼっくりもあるし置きたい！」「どんぐりたち東京タワーのてっぺんにも置こう！」など、絵本の世界にも入りこんで、どんぐりむらづくりが少しずつ形になってきました。

これつかう？



海の世界をみながらつくってるんだよ！



こんな形がいいかな？  
三角があったほうが  
いいかな？

お家のできたからどんぐりたち  
住まわてあげるんだ！  
これもつけよ！

こことここをくっつけて、  
お家にしてるんだ

### どんぐりむらの大きな建物をつくる！

火曜日に、タワー型の家や船型の家など思い思いの家が出来上がったので、今日は、以前のどんぐり会議で決まっていた、ディズニー・ぼうしやさん・海の世界・おまわりさんの製作に入っていました。チームでの作業は、上手にかみ合うこともあればかみ合わないこともあり、苦戦している場面もありました。言い合いになることがあっても、落としどころを見つけたり、他の案をだしたりと同じ目標に向けて試行錯誤する姿がありました。以下、各チームの様子をまとめます。

ディズニーチームは、まずはディズニーの形作りからはじまりました。「この長さの木じゃハマらないよ！」「じゃあこっちは？」「ああ！これいいね！」「二階建てにしよう！」「この板つかえるんじゃない？」と形がどんどん出来上がっていききました。しばらくすると、「屋根は青だ！」「屋根の三角さがして青にしないとじゃない？」とシンデレラ城の写真を見て屋根の部分が青いことに気がつく子ができました。「いいね！じゃあ屋根作る人と、お城をポンドでとめていく人で別れたらどう？」と聞いてみると、そうしよう！と役割分担が生まれました。屋根の色塗りが終わり、乾くのを待っている間にシンデレラ城の写真を見ていた子どもたちから今度は、「時計があるよ！」「時計つくりたい！」という声がありました。画用紙に描こう！となった時計の丸を描いては消し、描きなおし、何度もサイズを調整しながら作り、最後、時計がシンデレラ城についたときには、拍手が沸

き起こっていました。



ぼうしやさんチームははじめ、どうやってやったらいいのかな？と絵本を見ていたのですが、子どもたちの中にイメージが湧かず、上手く進んでいませんでした。そこで、「帽子を置く台があるから台から作ってみたらどう？」と提案してみました。「ああ！これね」「これ作れそうだよ！」と台を作るというイメージができた子どもたちは、板や木片などを探してきて、形を作り上げました。その台をボンドで接着したあとは、「ぼうし置かなきゃ！」とどんぐりの帽子を探しに行き、「こっちはおしゃれぼうし！こっちはボサボサぼうし！」と嬉しそうに紹介してくれました。



海の世界チームは、火曜日の午後にスライムで海を作るところまでできていたので、その海の中で泳ぐものを作ろう！と張り切って進んでいきました。しかし…「ねえネコは海の中泳がないじゃん！」「僕も作りたいから作らないで！」「ねえ！だれこれ作ったの！！」となかなか上手くまとまらず、話し合いをしてみることにになりました。「どんな生き物を作りたいの？」と聞いて見ると、「タコ！」「カメ！」「イソギンチャク！」と意見がでてきたので、「じゃあ、みんなで役割分担して、僕はタコ作るよ！私はカメにする！とかしてみたらどう？」と提案してみました。すると、「ああ、そっか！じゃあ僕タコね！カメやってくれる人～？」「私カメやる！」「あ！イソギ

ンチャクつくるから、ニモも作ろうよ！」と話がまとまっていきました。

(子どもたちが見せてくれたイソギンチャクがあまりにも可愛く、「めちゃくちゃ可愛い！上手だね！」と伝えたところ、気づいたらイソギンチャクが森のようにできあがり、とってもかわいい海ができました笑)



ニモの形  
はこんな  
感じか  
な？



おまわりさんチームは、交番の建物をつくるころまではスムーズにいったのですが、「どんぐりこうばん」という文字が書けない！と苦戦していました。「僕、「こ」と「う」は書けるんだけどな～書ける？」「書けない！」「じゃあどうする？」と話し合っていたので、「書ける人に助けてもらったらどう？」と声を掛けました。すると、その話し合いを聞いていた他のチームのお友だちが「僕書けるよ！書いてあげるよ！」と参戦してきてくれました。「ほんとに！このね、ここの文字書きたいんだよ、これね」とどんぐりむらの絵本に載っている交番の文字を一生懸命に友だちに伝え、託された子も「わかった！」と真剣な表情で書き進めていました。無事に文字が書き終わり完成すると、「ありがとう！」の嵐で、書いた子も頼んだ子たちもとても嬉しそうでした。



どのチームでも完成したときの子どもたちの姿が本当に嬉しそうで、木やどんぐりなどの素材と一体となり、夢中で作業を進めていました。喧嘩になったり、言い合いになる場面も超えて、試行錯誤を重ねながら「先生できたよ！！」「ここ！ここにどんぐりとまった！」と嬉しそうに見せにきてくれる子どもたちの姿にはグッとくるものがありました。遊びの中で、様々なことを吸収し、また、生きている実感にも満たされているそんな様子の子たちでした。

## どんぐりむらが形に！

今日は、どんぐりむらづくりの最終日でした。今のままだとどんぐりむらがいっぱいになってしまっていたので、どんぐりむらを広げるために新しい机を持ってきて、何をどこに置くかの話し合いの場を持ちました。すると、「ぼうしやさんとおまわりさんを小さいテーブルに置いた方がわかりやすいんじゃない？」「ああ！それいいね！」「ぼうしやさんチームこっちでもいい？」「いいよ！」と話が進んでいきました。話が終盤に差し掛かったとき、「あ！！でも滝！！滝作りたかったんだよ！ね！？滝つくるよね？」「そう！滝！滝作らなきゃだよ！」と海の世界チームから意見がでてきました。「じゃあ、海チームは滝作って、他のチームでむらをつくっていく？」と提案してみると、それだ！と話がまとまりました。最終日は、二つのチームに分かれて作業が進んでいきました。

むらづくりチームは、どんぐりむらのセッティングが終わると園長先生の「家と家の間には道路があるな～」の一言を拾い、道づくりがはじまっていきました。「おまわりさんとこの家が繋がるように道つくろう！」「このお家だけ道ないよ！」「まって！今切ってる！」と順調に道が出来上がっていきました。大きな道ができると今度は、「この道の横に畑つくる！」と畑づくりがはじまったり、「ディズニーにミニーちゃんをつけたい！」とミニーの模様がついたり細かいこだわりで着実にむらが出来上がっていきました。



どんぐり  
むらの畑  
はここに  
この向き  
で置くん  
だ！



海の世界チームは、カンカンの蓋にプラカップをくっつけて滝をつくっていくことになりました。まずはスライムづくり。はじめのスライムはホウ砂水をたくさんいれてしまったことで、固くなってしまい全然伸びませんでした。「伸びないな！伸びないと滝にならないよ！」「ホウ砂の水多いのかな？」「あんまりまぎってないんだよ！」「ホウ砂の水も入れすぎたよね！」とこれまでのスライムづくりの経験を生かし、問題を分析し、二回目のスライムづくりに挑戦しました。今度は、ホウ砂水の量やかき混ぜる回数にも注意してつくと、びよーんとすごく伸びるスライムになりました。「みて！めっちゃ伸びる！」「これいけるよ！」「滝になる！」と大喜びでスライムが滝にかけられていきました。最後は保育者の力も借りながら、大迫力の滝が完成しました。



## どんぐりむらを振り返る

『どんぐりむら』の世界が大好きなきりん組。これまで、らいおん組で挑戦してきた絵本の世界づくりをきりん組でもどうにかできないかと迷っていた時に出会ったのが、絵本の世界をミニチュアにするという遊びでした。ラキューでの虫の世界や海の世界づくりにハマっていたきりん組だからこそ、絵本の世界をミニチュアにすることもハマるかもしれない！と子どもたちに相談して、どんどん『どんぐりむら』ができあがっていきました。

この活動の途中、どこまで保育者が手をかすのか、声掛けをするのかすごく悩んだ場面がありました。子どもたちだけでイメージを形にしていくことの難しさ、子どもたちだけで0から1に1から100に、作り上げていくことには難しさがあり、そこに大人が入ることで、受け身な子どもたちにさせてしまっているのではないかと葛藤しました。そんな葛藤をかかえていたある日、「じゃあこうしてみるのはどう？」と提案したあとに（あ、言いすぎたかな？）と心の中で思っていると「あ～そういう方法もあるのか～！それいいじゃん！」と子どもたちから返答が返ってきました。保育者の意見をそのまま聞くだけの受け身ではなく、そんな方法もあるのか！と子どもたちのキャパを広げていってくれている遊びになっていると感動したのを覚えています。

保育者も悩みながら、子どもたちはもっと、こうしたいのにできない！などとたくさん悩んで、でも悩んだ末にできた！が生まれた楽しい遊びになりました。保育者の力も借りながら、自分の思いやチームの思いを形にできた、きりん組の『どんぐりむら』でした。



## 製作についての遊びが深まるとはなんだろう

昨年度行っていた石からの火熾し大作戦だと、火や石、木や炭などの自然物に、燃えるものや燃えにくいものといった世界の仕組みなどを全身で感じ、素材と一体となりながら、遊びを深めていっている様子が分かりやすかったように思います。一方で、製作活動における、素材との一体感や遊びの深まりを考えていくのには少しの工夫が必要なように思います。今回の活動でいうならば、どんぐりを夢中で探しているとき、どんぐりの家をつくっているとき、それぞれのチームに分かれてどんぐりむらを作り上げているとき、どんぐりむらと現実を行き来しながら、友だちともイメージを共有しながら、試行錯誤し、遊びがどんどん深まり、広がっていきました。

遊びの世界(どんぐりむらの世界)と現実の境界線が溶け、一体となる瞬間があること、友達同士でイメージが共有されること、こうしたい！の思いが湧き出てきて、遊びを展開させていくこと、失敗や喧嘩などを経ながらも試行錯誤が生まれていくこと、こうした流れの中で遊びが深まっていくのだと考えています。

今回のどんぐりむらの活動でも上記のような流れの渦ができ、遊びが深まっていったように思います。今後も、遊びの深まりを大切にしながら、子どもたちの本気の挑戦を支えていけたらと思います。